

平成15年度資源評価票（ダイジェスト版）

標準和名 ヒラメ

学名 *Paralichthys olivaceus*

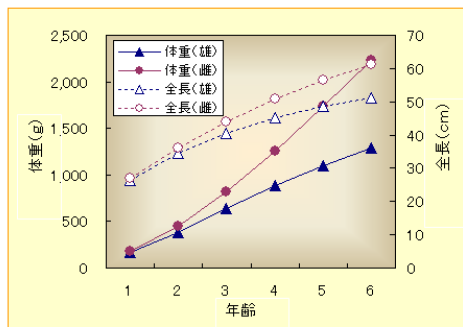
系群名 太平洋北部系群

担当水研 東北区水産研究所



生物学的特徴

- 寿命： 雌20歳以上、雄10歳以上
成熟開始年齢： 雌3歳以上、雄2歳以上
産卵期・産卵場： 5～7月、沿岸各地の粗砂および砂礫（水深20～30m）
索餌期・索餌場： 沿岸各地の水深40m以深の陸棚
食性： 着底稚魚はアミ類、全長10cm以上は魚類やイカ類
捕食者： 着底直後の稚魚は大型魚や甲殻類に補食される

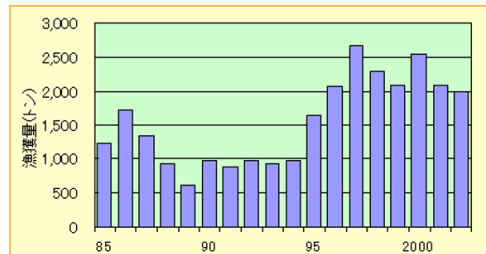
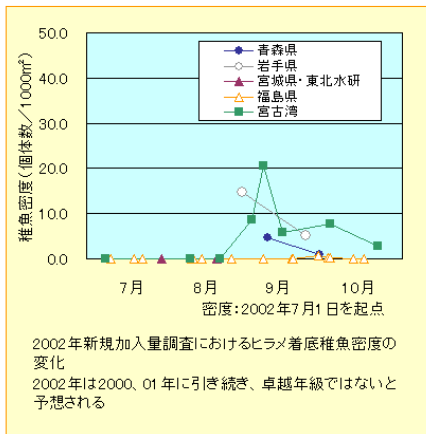


漁業の特徴

小型底曳き網、刺し網、定置網、沖合底曳き網により周年漁獲されている。漁法により漁獲物の体長組成は異なるが、全般的に45cm以下（1+、2+歳）が漁獲物の大半を占める。資源保護と管理を目的として、休漁や水揚げ魚の全長制限が各県で実施されている。また、ヒラメは高級魚であり、各県において種苗放流が盛んに行われている（2000年5,792千尾）。

漁獲の動向

青森県太平洋側～茨城県におけるヒラメの漁獲量は1986年には1,742トンであったが、1989年には632トンに減少した。その後1994年までは1,000トン弱程度で推移していたが、1995年以降は増加傾向を示し、1997年には2,674トンに達した。1996年以降は2,060～2,674トンで推移しており、2002年は1,994トン（概算値）であった。

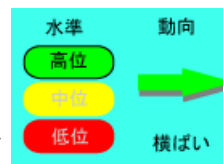


資源評価法

漁獲物の体長組成データを用いて年齢別漁獲尾数を推定し、コホート解析を行うことを目指している。しかし、成長や年級群豊度の年変動によって年齢－体長関係（age-length key）が年によって大きく異なることが予想される。さらに雌雄でも成長が異なることから、性別のage-length keyの作成および予測を検討中である。現段階では性別年齢別漁獲尾数のデータが整理されておらずコホート解析を行えないので、漁獲量の推移を参考にして資源評価を行っている。

資源状態

1996年以降の青森県太平洋側～茨城県におけるヒラメの漁獲量は2,060～2,674トンで推移しており、ここ15年間で最高水準を維持している。この高水準は、ここ数年に何回か発生した卓越年級群に支えられていたと考えられている。しかし2000年より開始した新規加入量調査では、2000～2002年発生群は卓越年級群とはみなせなかった。このように漁獲量で見ると、資源は高水準で横ばいと推定されるが、加入量水準の動向や貧血症の影響を注意深く見守る必要がある。



管理方策

漁獲量の推移より、資源状態は安定していると考えられており、現状程度の漁獲量を維持することを目標とした。ABClimitは1996～2001年の平均漁獲量、ABCtargetはABClimitの0.8倍とした。また小型魚保護の観点から、水揚げ魚の全長制限を今後も維持、徹底することが重要である。

	2004年ABC	管理基準	F 値	漁獲割合
A B C limit	23百トン	Cave6-yr	-	-
A B C target	18百トン	0.8ABClimit	-	-

資源評価のまとめ

- 近年の資源状態は、高位、横ばいである
- 過去3年間、卓越年級は発生していない

資源管理方策のまとめ

- 漁獲量の推移より、資源状態は安定していると考えられるので、現状程度の漁獲量を維持する
- 水揚げ魚の全長制限を今後も維持する

資源評価は毎年更新されます。